

フランコが自己検閲した映画 (台本、ハイメ・デ・アンドラーデ)



- 1941年に封切り「Raza(種族)」

- 1995年に完全版が発見される。

- 1950年に改編封切り

「Espíritu de una raza(ある種族の精神)」

この二つの映画の相違

(1)合衆国批判が薄まる。

(2)ファランへの言及が削られる。

(3)ファシスト的挙手による敬礼の場面をカットする。

※「スペイン広場」のドン・キホーテ像もカット。

(4)タイトルを変更する。



フランコ製作の映画『民族』の改ざんが明るみに (960129)

一九四一年製作のスペイン映画『民族』は、スペイン内戦後四〇年にわたって独裁を続けたフランコ将軍がハイメ・デ・アンドラーデの名前でみずから台本を作った国策映画として有名だが、これまで一九四九年に上映された第二版との相違はあまり着目されていなかった。

エル・パイプ紙によると、ベルリンの壁崩壊後、東ベルリンの史料館にこの第一版が無傷で保存されていることが判明、このほどスペインのフィルム・ライブラリーは、この二つの版を並べて上映することになり、両者の違いが鮮明となった。

第一版の上映時間一〇五分が第二版では九九分に短縮、しかも吹き替えで多くの台詞が変更されていることが分かった。第一版では、ナチズム支持、反民主主義的要素が色濃かったのが、第二版では、第二次大戦終結と国際的孤立のなか、ファシズム的色彩を何とか薄めようとする努力のあとがうかがえる。カットされた映像には、右手をあげて子供たちがファシスト的挨拶をする箇所、主人公の司令官が甥っ子にそうした挨拶を教える下り、さらに、フランコ自身が手を上げて軍事パレードを謁見するシーンも。変更された台詞は、内戦を起こした軍事蜂起の動機をもっぱら国際共産主義の脅威への対抗として描こうとしている。『民族』は、内戦後の厳しい検閲体制のなかでフランコみずからが自己検閲を行なった作品として、あらためて注目されている。



スペイン広場
(マドリッド)



セルバンテス／スペイン広場／イスパニダー(スペイン精神)

○1915年、『ドン・キホーテ(後篇)』出版300周年 / 1916年、セルバンテス没300周年

——→「セルバンテス記念碑」建立の動き

○1926年に始まるが、プリモ・デ・リベラ失脚の1930年に中断。

○1957年～1960年

— 「セルバンテス」 「ドン・キホーテとサンチョ・パンサ」 「アルドンサ」 「ドウルシネーア」

— 「文学(La Literatura)」 「軍事的価値(Valor Militar)」 「神秘主義(Misticismo)」 のアレゴリー：軍隊と教会

— 「ラ・ヒタニーリャ」 「リンコネーテとコルタディーリョ」 「五つの大陸」

